

令和 5 年度・6 年度
鹿児島県租税教育研究委嘱校

租税教育の実際



曾於市立財部中学校

目次

I はじめに

- 1 曾於市の概要・・・・・・・・・・・・・・・・ P1
- 2 校区の概要・・・・・・・・・・・・・・・・ P1

II 研究の概要

- 1 研究主題・・・・・・・・・・・・・・・・ P2
- 2 研究主題設定の理由・・・・・・ P2
- 3 研究の仮説・・・・・・ P2
- 4 租税教育の目標・・・・・・・・ P2
- 5 研究組織・・・・・・・・ P3
- 6 研究の進め方・・・・・・ P3
- 7 研究の経過・・・・・・ P4
- 8 研究の実際・・・・・・ P5～18
 - (1)社会科での取組・・・・・・ P5
 - (2)租税教室の実施 1・・・・・・ P6
 - (3)租税教室の実施 2・・・・・・ P9
 - (4)税に関する作文への取組・・・・・・ P14
 - (5)Tax委員の取り組み・・・・・・・・ P16
 - (6)曾於市子ども議会への参加・・・・・・ P18
- 9 成果と課題・・・・・・ P19
- 10 おわりに

I はじめに

1 曾於市の概要

曾於市は、鹿児島県の東部を形成する大隅半島の北部に位置し、宮崎県都城市、志布志市、霧島市、鹿屋市、曾於郡大崎町に接している。

本市の広域交通網は、市の中央部を東西に国道10号、南北に国道269号が走り、南西部には東九州自動車道、東部には地域高規格道路が整備中で、宮崎県の中核都市である都城市まで約15分、志布志港まで約30分、鹿児島空港・宮崎空港まで約1時間の圏域にある。

また、JR日豊本線が市の北部を東西に横断し、流通や情報発信の拠点として近年、期待されている。

畜産が基幹産業である曾於市は、財部町に国立大学法人鹿児島大学共同獣医学部と連携して旧県立財部高校跡地に南九州畜産獣医学拠点（通称:SKLV□スクラブ）を整備し、将来の畜産業・獣医療を担う人材の育成、新たな産業の創造、交流人口の増加を目指している。

2 校区の概要

町の中心部を除き、大部分は山地と浸食谷の幅そうした自然豊かな森と歴史・伝説の残るこの地で、平成24年4月1日に財部中学校・財部北中学校・財部南中学校の3校が、曾於市立財部中学校として統合された。

霧島山麓と都城盆地に囲まれ、きれいな水と適度な寒暖差がある財部町には、この環境を活かしてうまみと風味豊かな緑茶の栽培が盛んである。

また、鎌倉時代に財部六郎正信が築城したといわれる龍虎城（財部城）跡、南九州の風土が生み出した溝ノ口洞穴など史跡や文化財も数多くあるこの土地で生徒たちは伸びやかに活動している。



Ⅱ 研究の概要

Ⅰ 研究主題

「郷土について理解を深め、持続可能な曾於市の実現に主体的に行動できる生徒の育成を目指す租税教育」

2 研究主題選定の理由

鹿児島県における租税教育は、「租税に関連した事項を通して郷土について関心を高め、公民としての資質を身につけ、社会における権利と義務の主体者として自主的に判断し行動するための諸能力を育てる。」ことにねらいを置いている。

また、曾於市の人口の約43%が高齢者で過疎化現象が進んでおり、同時に生徒数も年々減少してきている。このような中、生徒には、さまざまな閑居において問題を解決する資質や能力等の育成が求められている。

これらの状況を考慮して「郷土について理解を深め、持続可能な曾於市の実現に主体的に行動できる生徒の育成を目指す租税教育」と研究主題を設定した。

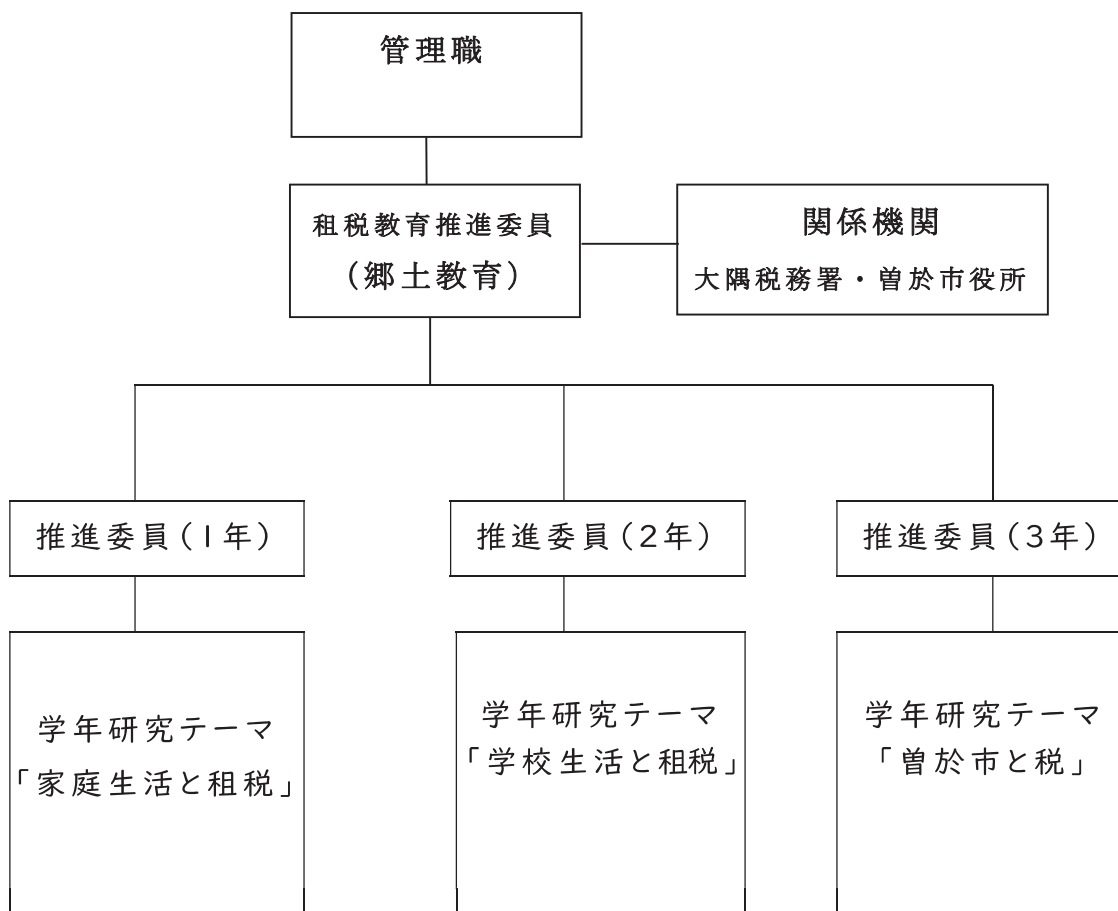
3 研究の仮説

- (1) 身近な生活や郷土を中心とした租税に関する授業となる租税教室を行うことにより、生徒の租税や郷土についての興味・関心が高まり理解が深まるのではないかな。
- (2) 生徒が主体的・自発的に資料収集、調査研究、研究発表を協力して行う場を設定することにより、主体的に行動できる生徒の育成ができるのではないかな。

4 租税教育の目標

- (1) 租税についての正しい知識、理解を深める。
- (2) 主体的な態度を育成するとともに、発表力を伸ばす。
- (3) 身近な生活と租税や郷土について学習することにより、郷土への理解を深め、郷土愛の精神や態度を養う。

5 研究組織



6 研究の進め方

- (1) 校内研修会は、必要に応じて随時開催する。
- (2) 研究推進委員は、各学年の郷土教育係とする。
(なお、必要に応じて管理職も参加する。)
- (3) 研究は、全体会と部会(学年)で進める。
 - ア 推進委員(3年)は、全体の計画や行事との調整を行う。
 - イ 推進委員(2年)は、教科・特別活動・総合的な学習の時間等の実践活動を行う。
 - ウ 推進委員(1年)は、主にアンケート調査の統計と考察、生徒向けの広報を行う。

7 研究の経過

①令和5年度(1年目)

月	内 容
4月	・租税教育推進校の委嘱 ・租税教育系の設置や研究主題の設定
5月	・租税教育年間計画の検討
6月	・租税教室の計画, 準備
7月	・租税教室の開催・税に関する作文や標語作成
8月	・租税教育資料のまとめと今後の計画検討 ・税に関する作文の添削指導
9月	・第1回 税に関するアンケート実施と分析
11月	・鹿児島県租税教育研究会への出席
12月	・令和元年度活動報告まとめ準備
3月	・1年目の研究まとめ ・次年度の研究計画案の修正

②令和6年度(2年目)

月	内 容
4月	・研究計画の確認 ・社会科での取り組み開始
5/6月	・Tax委員による活動開始
7月	・租税教室の開催 ・第2回 税に関するアンケートの実施と分析 ・税に関する歴史(PW)づくり
8月	・11月の租税教育研究会に向けて研究誌作成 ・11月の租税教育研究会に向けてパワーポイント作成 ・税に関する作文の添削指導
9月	・Tax委員による税に関する発表(模擬授業)
10月	・研究冊子の完成
11月	・税に関する資料を取り入れた「子ども議会」の内容発表
3月	・2年目の研究のまとめ ・次年度の計画案の作成

8 研究の実際

(1) 社会科での取組

令和5年度から、租税教育推進校の指定を受け、2年間にわたり、本校で租税教育を推進していくことになった。社会科として、指定を受けてから2年にわたり、税務署職員や曾於市税務課職員による租税教室を行い、「税の作文」など作品応募にも参加し、税に関する資料を参考に理解を深めてきた。社会科では、1年生から計画的に授業で、税に関する題材に触れながら知識の積み重ねが行えるよう、3年間の指導内容を確認して社会科の授業に取り組んでいる。

(社会科学習内容における税との関連箇所)

学年	分野	税に関する単元と内容
1年	歴史	○ 古代国家の成立 ・租庸調 ・労役の義務 ○ 武家政治のはじまり ・守護 ・地頭 ○ ゆれる武家政治 ・地頭 ・惣 ・年貢 ・座 ○ 世界の動きと全国統一 ・楽市楽座 ・太閤検地 ○ 江戸幕府の成立と鎖国 ・石高 ・百姓
	地理	○ 世界の諸地域 ・発展途上国の財政と日本と財政比較 ○ 世界の諸地域 ・ヨーロッパと日本の消費税比較
2年	歴史	○ ヨーロッパ近代の成立 ・ボストン茶会事件 ・資本主義 ○ 明治維新 ・地租改正や新政府の税改革
	地理	○ 世界からみた日本 ・日本の人口分布と課題 ○ 日本の過疎化や過密化 ・少子高齢化による税負担について
3年	歴史	○ 第一次世界大戦 ・各国の経済負担 ・労働争議 ○ 第二次世界大戦 ・世界恐慌 ・戦後の日本の改革
	公民	○ 日本国憲法 ・納税の義務 ○ 地方財政の現状と課題 ・地方の歳出や歳入の現状 ○ 私たちの暮らしと経済 ・消費者としての経済活動 ○ 納税者としての経済 ・国の支出と収入 ・社会保障と私たちの生活
その他		* 3年, 税の作文を書く前の事前指導や調べ学習 * 全学年, 中学生用の資料を活用して, 税の使用方法を学習

〈考察〉

2年間、税務署・市役所税務課の方を講師に租税教室を行なった。また、年間の社会科授業でも税に関する学習を組み込んできた。その結果、税に関する知識が増え、興味を持つ生徒が増えてきた。今後も計画的に税に関する内容を指導し、税についての理解を深めていきたい。

(2) 租税教室の実施 Ⅰ

財部中学校は、9月に大隅税務署の職員を講師として招き租税教室を実施した。生徒も外部からの講師ということで新鮮な気持ちで話を聞くことができ、税についての興味や関心をもつ良い機会になった。令和5年度は、9月に3学年、それぞれ学年ごとに行なった。



於 大隅税務署の職員による租税教室

生徒の感想

今日は租税教室で税金がなくなることで、サービス（消防・警察・道路整備 等）が受けられなくなることを改めて学ぶことができ、税金について考えることができました。

租税教室で税金について、新しく知ることができてよかった。また、どれくらいの税金がかかるかなどたくさんの項目や、実際に計算することができて楽しかった。将来、汗水たらして働いて、税金をしっかりと納めたい。

今日は租税教室があり、今までの考えがガラリと変わる1日となりました。分かっていなかったことが、一気にわかりました。

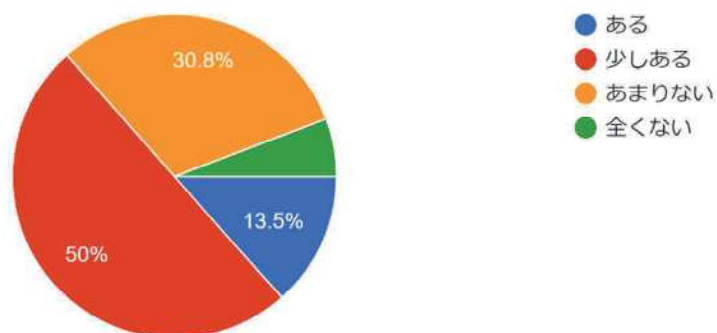
税金について勉強しました。僕も最初は「税金なんていらないでしょう。」と思いましたが、動画や講話を聞きながら税金の大切さをしっかりと学ぶことができました。

税金のおかげで私たちが学校に行けること・生活ができていることを改めて感じました。税金にあんなに種類があることを初めて知りました。

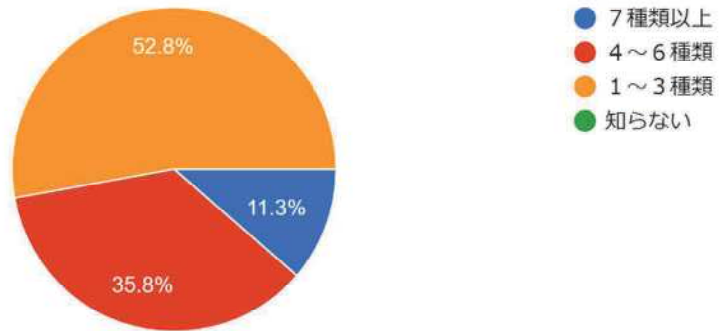
〈考察〉

令和5年度は、9月に税務署の職員による租税教室が行なわれ、学年ごとに同じテーマで行なった。専門の職員が豊富な資料を活用しながら説明する時の生徒の反応はとても良く、充実した時間を過ごせた。様々なホームページから租税教室用のプレゼンテーションソフトや映像を使い、授業の導入などで使わせていただいた。教師自身もさらに研修を行いたい。

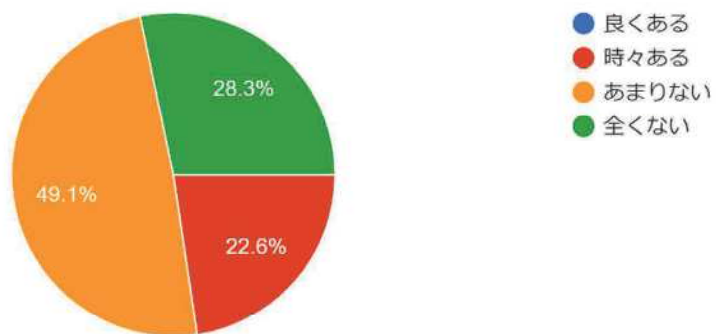
① あなたは「税」について、興味関心がありますか。



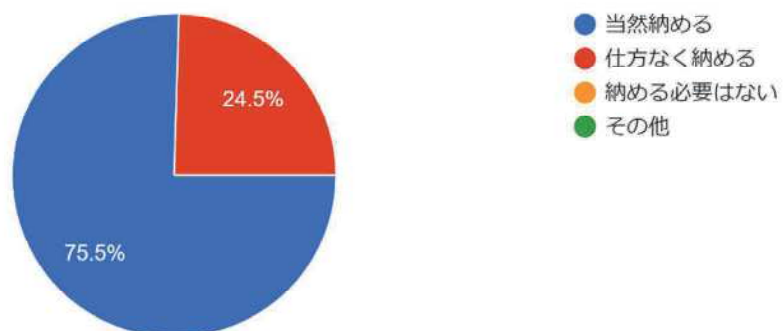
② あなたは「税」の種類を、どれくらい知っていますか。



③ あなたは「税」について、家庭で話をすることがありますか。



④ あなたは「税」を納めることに対して、どのように思いますか。



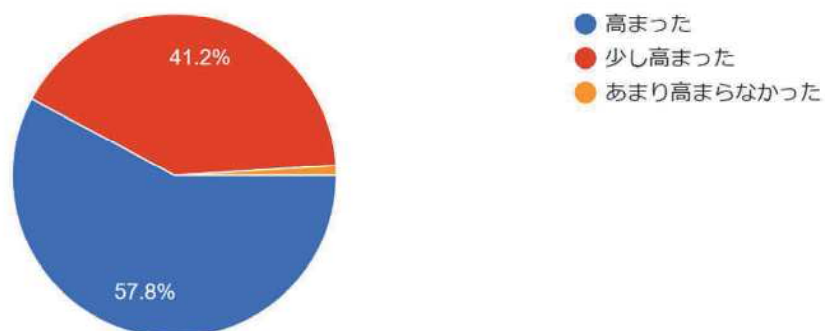
(3) 租税教室の実施 2

令和6年度は、7月に曾於市税務課の職員を講師として招き全校生徒一斉に租税教室を実施した。2・3年生は昨年の経験を活かして進行をTax委員のメンバーを中心に行なった。外部からの講師ということに加え、身近な曾於市の財政について講義された。講義終了後は、1年生から3年生まで多くの質問が出た。地域の財政について実際にかかわっている方から聞くことはとても新鮮だったようである。税に関する興味や関心が深まった生徒も多かった。

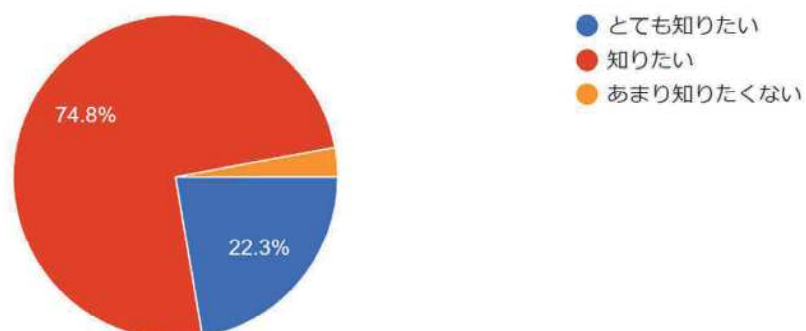


於 市税務課の職員による租税教室

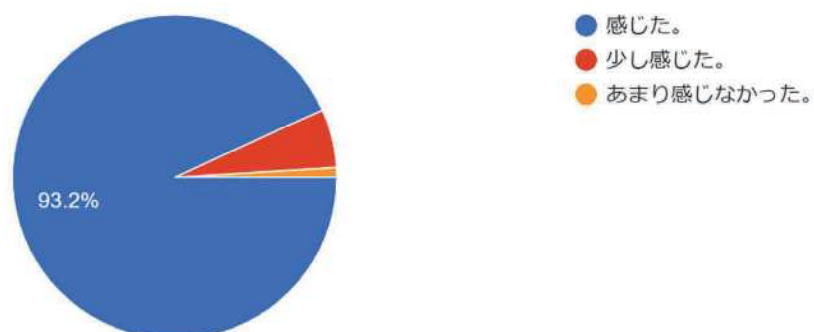
1 税について興味・関心高まりましたか。



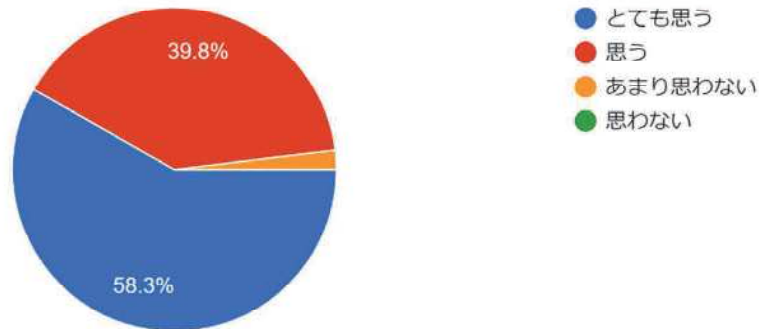
2 税金についてもっと知りたいと思いますか。



3 税が生活の身近なものだと感じましたか。



4 税について学習することは必要だと感じますか。



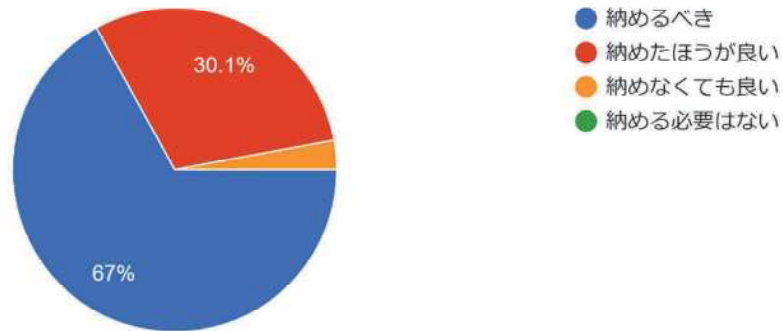
記述 なぜ「あまり思わない」「思わない」なのか答えなさい。

- そのうち知ることになると思うから。
- 社会に出て学ぶことだから。
- あまり思わない。
- 税について関心を持ってないから。
- あんまり必要がなさそうだから。
- あまり学習した経験がないから。

- ・税は学ぶべきだと思うから。
- ・税金がないと道路などの整備ができないから。
- ・3年間でかかるお金の金額を初めて知ったから。
- ・今分かっていないと将来大変になるから。生活するうえで知っておかないといけないことだから。
- ・義務だから。
- ・税金について学習すべきだと思う。
- ・税は知っとくべきだから。
- ・必ず納めないといけないから。
- ・今後税金を納めることになるから。
- ・この先税にかかわることが多くなりそうだから。

* 右は、記述以外で自由に書きこんだ生徒のものである。

5 税を納めることについてどう思うか



記述 「納めるべき」「納めた方が良い」と答えた人はなぜそう思いますか。

- 未来の社会のため。
- あとで多額のお金を払わないといけなから。
- 生活が不自由になる場面が出てくるから。
- 税があるからこそ私たちの身近な生活が成り立っているとわかったから。
- 納めないと色々な事や物にお金がかかるから。
- 納めることで街の発展につながるから。
- 納めないと社会が苦しくなるから。
- 多くかかるお金を初めて知ったから。
- 国民の義務だから。
- 補助金が無くなってしまうから。
- 何をしてもお金を払わないといけなくなるから。
- 税金で様々なことを補うことが出来るから。
- 納めるのには意味があるから。
- 自分自身のためだから。
- もしも災害などでいろいろなものが崩壊したときなどに役に立つから。
- 税金がどこで使われているか理解をしたほうが良いとわかったから。

- 国のため。
- 納めないで困るのは自分だから。
- 納めたお金が町の活動のためなどに使われるから。
- みんなためになるから。
- 納めないと国を支えることができないから。
- 納めないとよりよい生活を送れないから。
- 納めないと救急車などが無料で出ないから。
- 脱税になるから。
- 税金でいろんな人の生活が支えられているから。
- 納めることで、生活しやすい環境になるから。
- 決まりだから。
- 納めたほうが自分たちのためになるから。
- 国のためだから。
- 納めないとすべてのことにたくさんのお金がいることになるから。
- 自分やほかの人を助けられるから。
- もしものために使用できるから。
- 逃れることが出来ないから。

○納めないと何もかもにお金がかかるから。
 ○年金が賄えないから。
 ○税を納めないと気持ちの良い環境で過ごせなくなるから。
 ○税を納めないと何事にもお金がかかってしまい、普段の生活を過ごすだけで税金を納める額よりも高い金額になってしまうと思ったから。
 ○税金は、自分たちの生活の役に立っているから。
 ○これからの生活のため。
 ○一人一人の負担が減るから。
 ○税金を納めないと、公的サービスを運営する費用がなくなってしまうから。
 ○今もそうだし、これからも必要なことだから。
 ○税金あることで町などが整備されているから。
 ○納めることで成り立っているから。
 ○納税することで、自分だけでなく、ほかの人にも役に立つから。
 ○税金がないと国が上手く回らなくなる。
 ○納めないと病院や消防、警察を呼ぶのにもお金がたくさんかかるから。
 ○税金がなかったらごみの処理や消防車・救急車が来てくれなかったりしてみんなが困るから。

○国が決めたから。
 ○罰を受けるのは嫌だから。
 ○必要な時にお金を払わないといけなくなるから。(救急車等)
 ○生きるために大切だから。
 ○日本は税金があって成り立っているから。
 ○全てではないが自分たちにも使われているから。
 ○将来困るから。
 ○そうしないと調査がくるから。
 ○納めないと、倍払わなければならないから。
 ○納めたほうがいい。
 ○必ず納めないといけないから。
 ○納めないと道路の補修や救急、消防などが動くことができないから。
 ○自分やみんなのためになるから。
 ○税を納めることは必ず自分に得として返ってくるからです。
 ○世の中が大変になるから。
 ○環境がよくなるから。
 ○納めないと暮らしていけないから。
 ○後々、請求されるされるのが嫌だから。
 ○日本をより良くするため。
 ○必要なものだから。
 ○税金がないとやりたいことができないから。

〈考察〉

令和6年度は、7月に曾於市税務課の職員による租税教室が行なわれ、全校一斉に曾於市の財政、税金クイズなど身近なテーマで講義を行なっていただいた。曾於市の税金や税の種類など担当の職員の方が資料を活用しながら説明する時の生徒の反応はとても良く、充実した時間を過ごせた。特に税金クイズでは、終わったあとに質問もいくつか飛びだし、今後の活動への動機付けにもなった。教室の流れを生徒に任せた時間でもあったので、今後は生徒が主体となる活動の内容も増やしていきたい。

(4) 税に関する作文への取組

令和5年度から、租税教育推進校の指定を受け、2年間にわたり、本校での租税教育を推進していくことになり、夏休みの課題として、税に関する作文に取り組んだ。
(モニターに下記を資料として提示)

作文の題材探しの具体例

- 日頃の生活と税の関わりを調べる。
- 学校生活の中で授業で使われる当たり前にある備品や消耗品、本来なら高額な入場料がかかるが、それが無料でできる理由を考え、税の関わりを調べていく。
- 自分が、あるいは家族が経験した出来事から内容や経過をまとめ、医療費負担が少しですんだ理由や公的サービスなどを調べ税の役割をまとめてみる。

作文の書き方（税について考える）

- 導入→展開→終末の順番で書いていく。
- 展開
 - ①毎年配布される中学生用租税教育教材「わたしたちの生活と税」を参考。
 - ②租税教室で気づいた点などを参考にまとめていく。
- 終末
 - これらの経験をどのように生かしていくかをまとめたり、課題となる点を書き出したりして自らの考えをまとめてみる。

税の作文を書いている様子





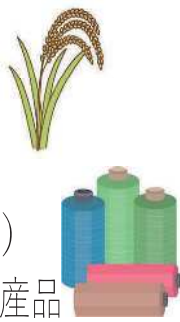
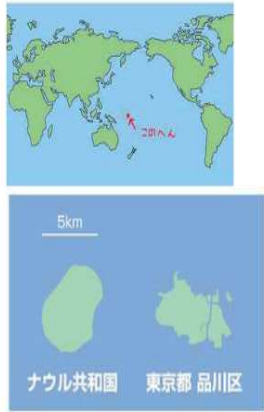
〈考察〉

税の作文について令和5年度は3年生、次年度は2・3年生に取り組ませた。教師側がヒントや書き方を提示することにより予想以上にスムーズに取り組めていた。また、授業形態を活かして2年生はタブレットを使いながら、3年生は生徒同士で推敲も行なった。今後は各教科とも連携を図り、啓発活動も進めていきたい。

(5) Tax委員の取り組み

令和5年度から、租税教育推進校の指定を受け、2年間にわたり、本校での租税教育を推進していくことになった。2年目の社会科の授業での導入として、税金クイズを定期的に出題して税の知識を増やすことにした。クイズ集は5枚作成し、Tax委員のメンバーに作成してもらった。

ア 税の歴史・税金クイズ・税に関するイベント

飛鳥、奈良、平安 ・ 701年「大宝律令」 ↳ 租・庸・調ができた 租→稲の収穫量の約3% 庸→布（労役10日のかわり） 調→絹、糸、真綿、布、特産品 	11世紀～鎌倉時代 荘園の開発が進む→荘園では税が免除 武士が年貢を取り立てるように 鎌倉時代の始め～ 宋(現在の中国)から輸入した 銭で年貢を納めるところも 
日本 ・ 原始時代と呼ばれる古代にも税に似た制度は存在したと考えられている。 ・ 考古学研究から類推すると収穫物は一旦神に上げられ、民に分配されていたという説が語られている。 ↓ これが正しいければ現在の税制度に似た方法だと言える。	税の無い国 ・ すべての国に税があるわけではない。 ・ 例えばナウル共和国。 ・ 国土は東京の品川区と同じくらい。 ・ 人口は1万人程度。 ・ リン鉱石の採掘によって栄えた為税金が無い。 

Tax委員のメンバーが制作した「税の歴史」のパワーポイントの一部



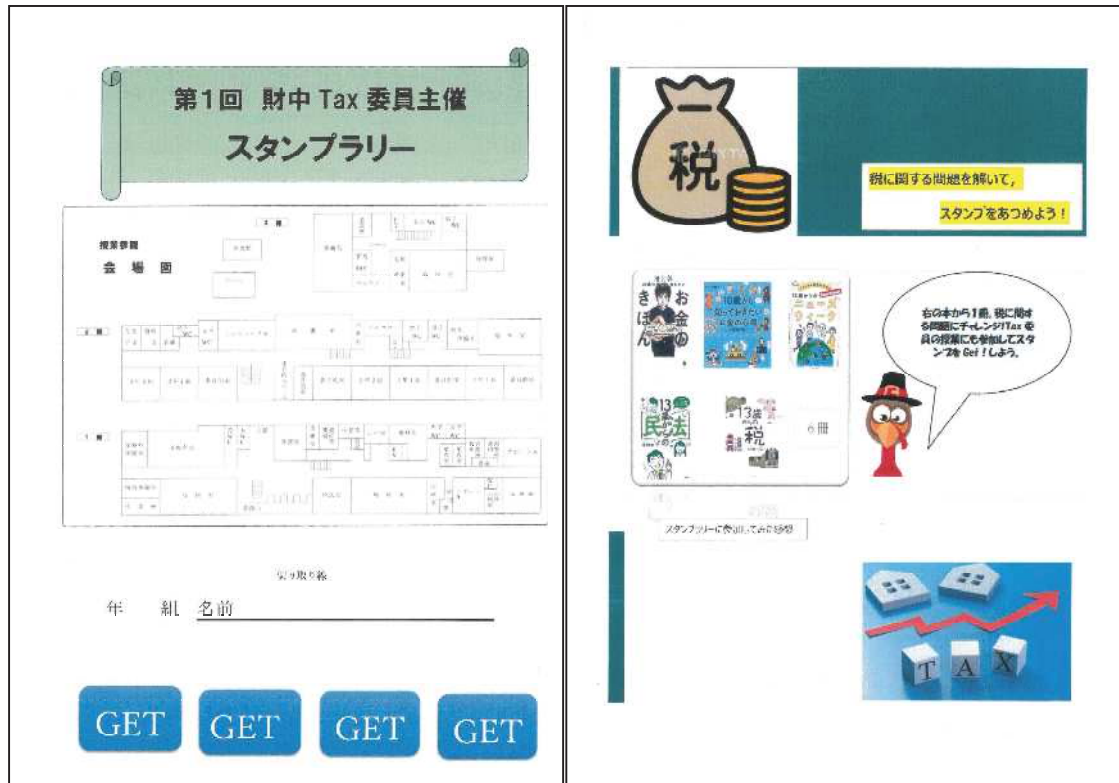
Tax 委員メンバー

イ 税好きが集う「税の日」

Tax委員による税に関する授業とスタンプラリーを行なった。下記は授業で使ったパワーポイントとスタンプラリー用のリーフレットである。

表

なか



スタンプラリー用リーフレット



授業用スライド生徒制作

〈考察〉

いただいた租税教室の資料を参考にし、Tax委員のメンバーに税に関する問題を作成してもらった。生徒は、日本の借金の額の多さや、税金の使用方法に驚きながら意欲的に問題を解いていた。クイズ形式の3択で行った。また、スタンプラリーの「スタンプをGet!」するための質問として取り込むことで生徒の苦手意識も和らぎ効果的だった。

(6) 曾於市こども議会への参加

地方議会の役割や仕組みについて体験することができ、生徒に政治への興味を持たせる機会にもなった。日頃、疑問に思っていることを紙面にすることにより、地方税の意義や役割についても学ぶことができた。

また、こども議会に参加することで、市議会の仕組みを学習すると共に、市政への関心を高め、本番さながらの議会の雰囲気を味わうことができた。



令和6年8月 曾於市こども議会の様子

問題点 設備の管理

○公園の管理費用は年間
(2022年曾於市の公園の数20か所に対して)

- ①点検 約 50万円
- ②修繕 約 200万円

※ただし、遊具が約80ほどあり一つの遊具につきおよそ3万円程度の点検や修繕費がかかっている。1か所に新たな遊具を設置すると、年間60万円ほど増える。

取り組み

- ①少子高齢化に対応するために、住民の健康増進を図る
- ②若い世代や外国の人が住み続けられるためのコミュニティづくり(英語での標記を作る)
- ③中高生が地域で活動できる場所づくり

ふるさと納税や住民からの税収だけに頼らず、積極的なイベント活動を行う。

こども議会で使用したスライドの一部である。提言書を作成する中で、市の歳入支出から予算配分まで、項目ごとに確認し、税収入についても同時に把握し触れることができた。

発表者 感想(一部抜粋)

当日はとても緊張しましたが、自分にとってとても良い経験になりました。また、発表の準備をする過程で曾於市の予算や財政についても資料を見ることができました。今回の発表で学んだことは今後に活かしていきたいです。

〈考察〉

これまで「曾於市こども議会」は生徒会から提言者を選出していたが、今回Tax委員のメンバーが活動の一環として取り組んでみた。曾於市の財政や住民税、ふるさと納税についても関心を持つことができたようである。

9 成果と課題

成果

- ① 当たり前と思っている公的サービスが税金で成り立ち、今後自分たちも納税者として働いていこうとする義務感が育っている生徒が増えた。
- ② 租税教室や税の作文などの多くの活動を通して、税の仕組みなどを積極的に学ぼうという自主性が見られた。
- ③ 外部との連携から、これからの日本について真剣に考える機会を得ることができた。
- ④ 納税ができる生徒を育成するためにも、普段の提出物や仕事を最後までやり遂げる責任を育てることの大切さについて職員間で共通理解を図ることができた。
- ⑤ 社会科の授業で、1年時から租税教室を行い、税に対しての堅苦しさや抵抗感をなくすことができた。
- ⑥ Tax委員の活動を通して生徒の税への関心が高まった。

課題

- ① 租税教育を通して、納税に対する納得感の醸成を育てることは、多くの社会問題解決のためにも必要な教育で、社会全体で取り組む意識が大切である。
- ② 小学校や中学校、さらには高等学校で学習する税の内容を系統的に理解して、段階をふまえた授業を行う必要がある。
- ③ 租税教室充実のために、税務署と連携をとり、学校現場に応じた指導の工夫や教材の開発が求められる。
- ④ 日々の授業や生活の中で、税金が限られた財源であることを意識して考えさせることは教える側の意識の高さが求められる。
- ⑤ 客観的な情報をもとに納税の意義・役割・機能・仕組み等を考え租税意識の高揚を図る工夫が大切である。

10 おわりに

租税教育研究委嘱校として、「郷土について理解を深め、持続可能な曾於市の実現に主体的に行動できる生徒の育成を目指す租税教育」を主題に掲げ、実践してきた。十分な実践とは言えないが、授業時数の確保が難しいなか、税に対する知識が十分とは言えない私たちが指導するより、大隅税務署職員の協力で、「大隅税務署の租税教室」「曾於市税務課の租税教室」と有意義な学びの時間を与えていただいた。来年度以降も、継続して租税教室や税に関しての学習を深め、更に充実した租税教育を進めていきたい。

最後に、このような機会を与えてくださった鹿児島県租税教育推進委員会をはじめ、本校に来てくださりアドバイスしていただいた大隅税務署の方々には大変感謝している。心からお礼を申し上げたい。